



基本理念

- 1. 社員で考え、社員のための労働運動を目指す 企業内労働組合
- 2. 心とところをつなぐ相互扶助活動と、次代につなぐ社会正義の実現を目指す

JUSTICE

自らを変える!! 明日を創る!! イーストイノベーション

ジェイアール・イーストユニオン
 発行者 菅野 一位
 編集者 教 宣 部
 〒105-0021
 東京都港区東新橋 2-8-28
 TEL(JR) 057-7333
 TEL(NTT) 03-6452-9687
 ホームページ検索
 「JREユニオン」

謹賀新年

新たな時代を見据え、

変化をチャンスと捉えて挑戦を続けること

未来への継承

『変革2019イーストイノベーション』を成し遂げよう

令和二年 元旦



写真：相田勝仁さん(仙台地本)

新年のあいさつ

菅野一位執行委員長



新年明けましておめでとうございます。

令和2年の新春をご家族とともに健やかに迎えたい。こととお喜び申し上げます。また、イーストユニオン運動へのご理解・ご協力に心から感謝申し上げます。

さて、いよいよ東京オリンピック・パラリンピックの開催となる2020(令和

2)年が幕を開けました。日本開催は、1964年10月10日第18回オリンピック東京大会から56年ぶりとなります。「オリンピック憲章」によると、開会宣言は開催国の国家元首が行うことになっているようですが、第18回東京大会は当時のIOC会長からの要請で、昭和天皇が恭しく宣言したと記録に残っています。

オリンピック前日の9日までは激しい雨が降っていたようでしたが、開会式当日の10日からは「世界中の青空を集めたような快晴」と実況を中継するアナウンサーが見事に表現していたそうです。

日本はこの東京大会で、世界初の高速鉄道である東海道新幹線や首都高速道路の開通、人工衛星による世界初めでのオリンピック同時テレビ中継に成功し、このオリンピックを機会に「日本の技術力」を発信、右肩上がりでの高度成長を成し遂げたと言われています。

2020東京大会の「大会ビジョン」は、「スポーツには世界と未来を変える力がある。すべての人が自己ベストを目指し、一人ひとりが互いを認め合い、そして未来につなげよう。」と、そして3

本年も宜しく

お願い申し上げます

中央本部 執行委員会一同

執行委員長

菅野 一位

執行副委員長

国井 道徳

秋山 順一

飯野 浩

船山 勝広

添田 寿男

事務局長

菅井 正和

執行委員

斉藤 弘昭

小林 徹志

五十嵐 優一

小林 篤史

鮫島 毅

会計監査

斉藤 修

菊地 博英



つの基本コンセプトは「全員が自己ベスト」「多様性と調和」「未来への継承」となっています。まさに私たちイーストユニオンが訴えているかのように心に響きました。

私たちイーストユニオンも、ぜひ、2020オリンピック・パラリンピックを鉄道輸送・交通インフラを担う観点から成功に導き、日本を大きく変えた1964年の東京大会のように、2020年第32回オリンピック東京大会を大きな契機にして、JR東日本での組織の大躍進を成し遂げたいと思います。

あらためまして、新年を迎えイーストユニオンの大躍進にむけた、年初所感を述べ、本年の決意とさせていただきます。

会社が「変革2027」を発表してから1年、具体的な施策がやや足早に提案されてきました。その中で「新たなジョブローテーション」についても、労働組合を始め社員会(社友会)にも施策内容が提案・説明され、4月から実施されます。しかし、職場ではあと2〜3年でベテラン層が一気に退職し、中堅社員が実質現場の中心となります。

「新たなジョブローテ

「ジョブローテーション」は、社員自身がキャリア形成を図りながら、社員としての資質向上と職場自体がキャリア形成されることとが目的ではないかと考えています。ただ単に会社の施策を受けて仕事をするのでなく、社員自身がこの会社で自己形成を図り、成長し、新たな職場づくりを手掛けていくことが、これからの社員の仕事の役割であると考えます。

イーストユニオンは、こういった観点に注視し、会社の発展こそがそこで働く者の幸せの源泉(礎)との考えから、労働環境改善を担当する労働組合が、働き方の改善を求め運動することを通して社員・組合員の働き甲斐を表現し、このことを以って幸福感、期待感を充足させ、会社の真のパートナーとして変革し続けることが大切であると考えています。

ある組合のトップ役員が雑誌の中で、「改革を成功させるために先輩方は打って出て、多くが他職に転じた経過がある。今またそういう時代に来ているとの認識を組合員と・・・」と記載されていました。これは国鉄改革時における組合がとった組織戦略であり、国鉄時代の労働運動に回帰するかのよう

に大きな不安とこれに対峙すべく熱い思いがふつふつと沸き立ちました。私たちは会社から提示されているテーマである「変革2027」をJR東日本の新たな30年へのスタートとして捉え、今は会社の改革への熱意と思いを共有し、しっかりと腹に据え労働組合として労使間協議等あらゆる場面で「変革2027」を具体的に、働く者の側から責任を持って実現させて行くことではありませんか。

会社施策に乗じて、悪しき労働組合の歴史が繰り返されないために、私たちイーストユニオンは歴史を学び、会社と社員・組合員そして労働組合がしっかりとスクラムを組み、「ONE TEAM(ワンチーム)」で「新たなジョブローテーション」の成功を創り出していきたいと思

またJR東日本は、経営のトッププライオリティとして、全社員で「究極の安全」に取り組みとし、グループ一体となつて推進しています。私たちイーストユニオンも、安全の確立を労働運動での最重要課題に位置づけて、ポイント的に運動を展開し適時に会社との交渉を行って

安全の原点は現場・職場にあります。現場を知るためには、職場内でのデイスカッションをはじめ社員間のコミュニケーションを積極的に進め、現場に根ざした労働組合活動です。会社のパートナーとして、社員・組合員が安全へもキャリア形成に挑めるように、職場の環境づくりに労働組合側からも取り組んでいきたいと思

イーストユニオンは、昨年発表した「変革2019イーストイノベーション」を「労働組合の変革」として位置づけ、「民主的な組織創り」、「安全で安心して働ける職場創り」そして「組合員を守る」運動から、「組合員と家族の幸せを創造すること」をJR東日本の中で築き上げて参ります。

「一人ひとりがクリエイター!」として組合員・社員が「将来」を考えることは、とても大切なことです。また、多種多様な職場で働くなか、自分のこと、家族のこと、仲間のことを、職場・会社のこととを仕事をしながら一人

とです。今後、社員が減少し中堅社員が管理者となり職場づくりをリードすることになります。こうした状況の中、一人日常の管理者業務、職場創り、部下の育成・指導など多様な仕事に追われ続けているとしたら、その社員自身が疲弊してしま

ひとりの仲間を大切に、会社を守る闘いを続けてきた私たちだからこそ疲弊するのだと思います。さらに、会社と目指すものを共有する労働組合が、共にパートナーとなり変革に向かっていくことで、企業内労働組合としての役割を果たすことができ

「一人ひとりがクリエイター」とは、「自分の持っている力をアウトプットして、

それを仕事とするプロ」との位置づけから、労働組合がそれを補足し会社の生産性を上げ、「組合員と家族の幸せ」を築いていくことが、イーストユニオンの目的です。仲間のみなさんには改めてイーストイノベーションをもう一度読んでいただき、そして多くの組合未加入となつて

最後に、私たちイーストユニオンの労働組合としての思いは、鉄道で働き始めたあの時から変わっていません。歴史をしっかりと振り返り、学び、そして創造していく。その結果、現在の状況を創出して参りました。しかし、将来を見据え継承するには、まだ道半ばです。この次の30年

「一人ひとりがクリエイター」とは、「自分の持っている力をアウトプットして、